

中村元記念館通信



第4号

祝 開館1周年

1周年記念イベントを開催しました。

10月13日に開館1周年イベント「はじめてのインド」を開催しました。イベントがスタートする10時に合わせ、中村元博士のご息女であり当館の名誉館長でもある三木純子様にご挨拶をいただき、16時まで様々な催しに約520名の方が参加してくださいました。中庭では、カレー、パンの販売やカフェなどの飲食店、大根島産直市の野菜販売、似顔絵、民族衣装と楽器の体験コーナー、フリーマーケットなどを開催。民族衣装を着てシタールを触ってみる子供たちの姿もありました。町民



ホールでは写真家・三井昌志氏の写真展「インド・12億の素顔」を開催しました（※写真展は引き続き2014年6月頃まで記念館内で開催予定）。

記念館内では、インド映画の上映、ワークショップやヨガ体験も実施し、親子連れで賑わいました。15時から音楽ユニット・マイトリーによるライブも開催されました。皆さまのご協力に支えられ、このように盛大に1周年を祝うことができました。ありがとうございました。



中村元記念館東洋思想文化研究所 研究員報告会を実施しました

開館1周年イベントに合わせて、10月13日に中村元記念館東洋思想文化研究所の3名の研究員による報告会を行いました。発表内容は次のとおりです。



- ・中野秋鹿研究員「佐陀神能と中世出雲神話」
- ・島田隆輔研究員「<青柳亮>から<受難の使徒像>へー宮沢賢治の文語詩稿から」
- ・岡崎秀紀研究員「中村元博士とチベット探検先駆者 能海寛一慈悲をめぐって」



オリジナルグッズ新発売!

「慈しみの珈琲」 ¥500

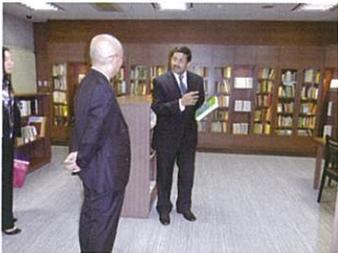
中村元記念館では、開館1周年イベントに合わせて、オリジナルグッズ第一弾としてドリップコーヒーの販売を始めました。グアテマラデリシャス、ブルーマウンテン、マンデリンスイートの3種類で、それぞれ5袋が1セットとなっています。今後は「オリジナルクリアファイル」など新たなグッズも販売予定です。ぜひお買い求めください。



○ドイツ大使・インド公使が来館されました。



8月7日にフォルカー・シュタンツェル駐日ドイツ大使が記念館をご訪問くださいました。大使は親日家であり、また松江市を大変気に入っておられ、松江日独協会発足のきっかけを作られました。本年日本を離任されることとなり、離任前に松江市を訪問されたということです。展示室にある中村博士の書斎の復元を特に熱心にご覧になり、書斎に置かれた道具（インクやハタキなど）にまつわる博士のエピソードの説明に耳を傾けられました。



また、10月24日にはインド大使館のサンジャイ・パンダ公使が来館くださいました。展示室、図書閲覧室をご覧いただきました。図書閲覧室では、中村博士の著書「Gotama Buddha」を手に取られて、インドでは「Gautama」と綴り、日本とインドでは発音がだいぶ違うのだということを話されました。あいにくの雨で、大塚山の「慈しみの碑」をご覧いただくことはできませんでしたが、写真をお見せすると、石碑のことは以前サンスクリット語で暗記したのだと話され、ご披露いただきました。

○海外研修旅行 韓国名刹寺院めぐりの旅 を実施しました。

9月17日から20日まで、中村元記念館が企画する海外研修旅行「釈悟震先生と行く韓国ソウル周辺名刹寺院めぐりの旅（4日間）」を実施しました。

韓国唯一の尼僧教団である普門寺（ボムンサ）、ソウルで最も簡素で美しいと言われる歓喜寺（ファンヒサ）、古の国指定の祈願寺・道誂寺（ドソンサ）、古の王室祈願寺・華溪寺（ファゲサ）、大韓仏教曹溪宗総本山・曹溪寺（チョゲサ）などを参拝しました。



普門寺「萬佛殿」



道誂寺（ドソンサ）で住職と記念撮影

この旅行では、インド哲学・仏教学、宗教学、比較宗教学の研究者であり、東方学院松江校「韓国の言語と文化」講座の講師でもある釈悟震先生が添乗し、説明と案内をしてくださりました。また、歓喜寺では韓国の精進料理をいただいたり、道誂寺ではご住職自らご対応くださるなど、一般の観光旅行ではできない体験をすることができました。

2014年2月には海外研修旅行の第2弾として「中村元東方研究所講師と行くインド仏蹟巡拝【釈尊三大聖地】の旅（6日間）」を実施予定です。今後も国内外の哲学・思想に関する場所への研修旅行を企画します。ご要望お待ちしております。

○日本印度学仏教学会招致記念 公開講演会を開催しました。

8月31日、9月1日に日本印度学仏教学会第64回学術大会が島根県民会館で開催されました。およそ450名の研究者が来松し、印度学・仏教学に関する各専門分野の研究発表を行いました。

それに先立って、8月30日にくにびきメッセ（島根県立産業交流会館）において第64回日本印度学仏教学会招致記念 公開講演会を開催しました。前田専学館長は「中村先生と記念館」、その年の世相をあらわす今年の一字で知られる京都・清水寺の森清範師は「人のこころ、観音の心」、宗教評論家として、また作家として多くの著作が知られる ひろさちや氏は「浄土とは、何か？」とそれぞれ題して、ご講演をいただきました。



ひろさちや氏「浄土とは、何か？」



2014年7月19日、20日には、比較思想学会第41回学術大会を中村元東方研究所との共催で行う予定です。

来館者1万人

1万人記念セレモニーを行いました。



松浦正敬松江市長、前田専學館長と原田さん親子

8月29日に中村元記念館の来館者が1万人を達成しました。1万人目は埼玉県の大学4年生原田さん。お母様と2人で来館されました。卒論のテーマが古事記の出雲神話で、それにまつわる場所を回って歩いていました。両親が島根県出身で、この夏休みに里帰りしたところ、記念館の話を聞き来館されました。

記念セレモニーではくす玉が割られ、前田専學館長から中村元の著書とCDセットが、松浦正敬松江市長から大根島のボタンの花束が手渡されました。原田さんは「こんなすばらしい記念館の記念すべき日に来館できて光栄です。今日いただいた本を読んで、今後の勉強や人生の参考にさせていただきます。」と話しました。

最後に、記念館職員で構成する「はじめのバンド」が、中村洛子夫人が作詞をした「小鳥」を演奏し、お祝いをしました。

大学連携

島根大学と包括的連携協定を結びました。

10月18日に、島根大学松江キャンパス（松江市西川津町）で、島根大学と中村元記念館との包括的連携協定調印式を行い、前田専學館長、清水谷善圭理事長、谷口博則副理事長が出席しました。島根大学で当館の講師が東洋思想の講義を実施したり、ゼミ単位で当館を活用するなどして連携を深めていく予定です。小林祥泰島根大学長は「近くにこのような素晴らしい勉強の場ができたことは島大にとってもありがたいこと

です。学生に活用してもらい中村先生の平和を愛する東洋思想を学んでほしいと思います」と話されました。今後は、大学と中村元記念館で連携し、研究の推進、研究者の育成を進めてまいります。また、哲学・思想を研究する世界中の大学との連携を進めております。



提携大学及び提携機関名板

□■□ 東方学院松江校 2014年度 受講生募集中！ □■□

哲学・東洋思想・仏教学を、日本を代表する講師陣から学べる学校です。詳しくは「東方学院松江校2014年度受講生募集チラシ」または、ホームページをご覧ください。 <http://www.nakamura-hajime-memorialhall.or.jp/>



さるすべりコーナーのおすすめ絵本

「ジャータカ物語」

今岡深雪 文 掛川晶子 絵
浄土宗出版 2011年



さるすべりコーナー（児童書コーナー）の絵本です。

第1話の『昔むかし、おしゃかさまがライオンだったときのおはなし』（『大きな音』）から第24話『約束』まで、輪廻転生を信じるインドの人々が生んだお話です。お釈迦様の前世は人だったり動物だったり、様々に考えられているようですが、どのお話にも人生へのメッセージやヒントがあり、大人の方にもオススメです。



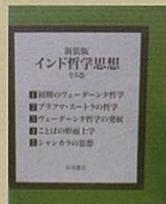
さるすべりコーナー

中村元 監修の『ジャータカ全集』は、記念館の閲覧室でご覧いただけます。

博士の本棚④ ～中村元博士の本の紹介～

『新装版インド哲学思想』全5巻

中村 元 著（岩波書店 2012年）



中村元が大学院時代に研究課題として選んだインド哲学思想、その学位論文が『初期ヴェーダ哲学史』4部作として出版されたのは1950年代です。博士が20代の頃の5年をかけた研究の成果

でした。24歳で招集され、病に倒れ大学へ戻った年から執筆が始められ、29歳の年に脱稿となったそうで、戦時中のため原稿用紙を入手するのにも苦労されたそうです。また、出版の時期が終戦前後と重なり、長い時間出版されずにいたため、防空壕へ原稿を運んで避難するなど大変な苦勞の後に世に出た本でした。後年に出版された『シャンカラの思想』が今回、それらに加えられ全5巻となりましたが、その元は大学院時代のノートに始まっているそうです。戦争と貧困の苦難を乗り越えて、現在の私たちの時代に改めて出版された中村先生の本を、ぜひ手に取ってみてください。中村元の恩師である宇井白寿が、第1巻に「序」を記しています。宇井先生より、仏教を研究したいのなら、まずヴェーダ哲学をやりたい、と勧められたのが研究のきっかけだったそうです。記念館では展示室のガラス戸越しにしか見ることができない本でしたが、岩波書店さんから新装版を寄贈していただきました。閲覧室に展示しておりますので、ご来館の折にご覧ください。

※4部作のうち、4巻目の『ことばの形而上学』には4冊全部の索引が巻末についています。

八束町文化祭に「じゃがほとけ」出展

11月3日に行われた八束町文化祭に中村元記念館も出展しました。

出展内容は「じゃがほとけ」。じゃがいも（メークイン）に筆ペンで仏様のお顔を描き、朱肉で色をつけます。

当日はあいにくの雨にもかかわらず、たくさんのお子様たちが参加してくれました。すてきなじゃがほとけができました。



八束公民館「ふるさと・文化講座」

八束公民館が毎月開催する「ふるさと・文化講座」が、11月15日に中村元記念館で行われ、15名の方が参加されました。

開館から1年が経った当記念館ですが、まだ地元での認知度は低いのが現状です。今回地元の方に、中村元記念館とインド文化に触れてもらおうと、DVD鑑賞と講義、民族衣装サリーの説明、じゃがほとけ作り、



チャイの試飲を体験していただきました。講座では、完成したじゃがほとけの“集合写真”の撮影会が始まるなど、盛り上がりました。



りゅうけいどう

大根島の溶岩洞窟「竜溪洞」見学会

中村元記念館のある大根島は火山の島で、20万年前に溶岩が流れた道筋である「溶岩洞窟」があります。その一つ、「竜溪洞」の見学会が11月10日に行われ、記念館職員3名が参加しました。

最初に洞窟に棲む生物の説明を受けた後、いよいよ洞窟の中へ。今回は、島根県自然観察指導員の門脇和也さんが洞窟案内を始めて49周年記念の見学会ということで、普段は見ることのできない奥の部分まで特別に案内してもらいました。自然

が作り出す不思議な現象に触れた一日でした。

溶岩洞窟見学に関するお問い合わせは、0852-76-2397門脇和也さんまで。



中村元記念館メール会員募集中！ 中村元記念館の最新情報をお届けします！

右のQRコードを読み取るかform@nakamura-hajime-memorialhall.or.jpまで空メールを送信してください！
PC・携帯どちらでもOK。詳しくはHPへ。※記念館通信のバックナンバーはHPでもダウンロードできます。



発行／平成25年12月 発行所／NPO法人中村元記念館東洋思想文化研究所

中村元記念館

Nakamura Hajime Memorial Hall
नाकामुरा हाजीमे स्मारक महामुह

〒690-1404 島根県松江市八束町波入2060番地

TEL 0852-76-9593 FAX 0852-76-9693

Mail: info@nakamura-hajime-memorialhall.or.jp

URL: <http://www.nakamura-hajime-memorialhall.or.jp>

■開館時間：9:30～18:00（入館は17:30まで）

■入館料：無料 ■閉館日：月曜日、夏期、年末年始

